

国語科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- どの学年も区平均を下回っている。特に、漢字の読み書きと言葉の領域についての正答率が低い。
- 4年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項、話すこと・聞くことの領域の正答率が低い。内容別に見ると、話し合いの内容を聞き取ることと、漢字の読み書きの正答率が低い。
- 5年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に我が国の言語文化に関する事項と書くこと、読むことの領域の正答率が低い。内容別に見ると、漢字の書き取り、説明文の読み取り、文章に書くことの正答率が低い。
- 6年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に我が国の言語文化に関する事項と書くこと、読むことの領域の正答率が低い。内容別に見ると、漢字の書き取り、言葉の学習、説明文の読み取り、文章に書くことの正答率が低い。
- 全学年を通して、漢字の読み書き、言葉などの基礎的な力を身に付けさせる必要がある。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・ひらがなを書いたり読んだりすることはできるが、長音、拗音、促音、撥音、助詞「はをへ」の表記をする力が身に付いていない。	・漢字や音読の練習には、熱心に取り組んでいる。漢字の習得については、正しい理解と反復練習が必要である。 ・文章の内容の大体を捉えることはできる。文章の組み立てを使って書く力には、個人差が見られる。伝えたいことを言語化することが難しい児童がいる。	・漢字学習に意欲的に取り組み、定着してきた児童は多いが、書き取りに苦手意識のある児童も多く、反復練習が必要である。 ・自分の意見を伝えることはできる。一方で、他者の意見を受け止め、まとめることはあまりできない。 ・箇条書きのようにして文章を書くことはできるが、組み立てを意識して書くことは苦手である。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童が多く、反復練習をする必要がある。 ・話し合いの内容を聞き取り、まとめることが困難な児童が多い。 ・文章の組み立てを意識して文を書くことが苦手である。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童や書き取りに苦手意識のある児童が多い。また、学習した漢字を文章の中で使うことが難しい児童がいる。 ・問題文の内容を理解することが困難な児童が多い。 ・短い文を書くことはできるが、文章の組み立てを意識して文を書くことは苦手である。	・全体的に漢字の定着に時間を要する児童が多く、反復練習をする必要がある。 ・問題文の内容を理解することが困難な児童が多い。また、理解できても自分の考えを正しい言葉を使って文章に表現することが苦手である。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・文字や助詞の表記、改行等を正しく文中で使うことができるように、「かくってたのしいね」等を活用して、書く機会を増やす。 ・関連図書の活用や読み聞かせを通して、読書の幅を広げる。	・小テストによる漢字の反復練習に取り組ませる。 ・文章を書いたり読んだりする活動の中で、言葉や文章の基本的な表記の仕方（助詞・句読点・かぎ「」・の正しい使い方）を身に付けさせる。また、言葉や文章を書くときに、既習の漢字を用いて表すようにさせる。	・既習漢字・新出漢字の定着のため、漢字小テストを活用し、反復練習に取り組ませる。 ・語彙を豊かにするため、いつでも辞書が手元にある環境を作り、言葉調べをする。 ・モデル文を使って構成を可視化し、何を書くか具体的に指導する。	・既習漢字、進出漢字の定着のため、反復練習や小テスト等の活用を行う。 ・読書の推進を行い、漢字に触れる機会を増やす。 ・文と文との接続の関係や、話の構成や展開を読み取る授業展開をする。	・既習漢字や新出漢字の定着のために、反復練習を行う。また、小テストを行うなどして、定期的に復習する機会を設ける。 ・使用できる語彙を増やすために、語句の意味や使い方を確認する。また、話や文章の中で使いこなせる語句を増やせるよう文を書く活動を授業内で増やす。	・既習漢字、新出漢字の定着のため、5問テストをして反復練習を行う。 ・文の中の主語、述語、修飾語のつながりや、文同士の関係に着目した読み方を授業で実践する。
思考・判断・表現	・話し合う機会を多く設けて、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。 ・二人組、少人数、全体など話す規模を変え、話し合い活動の経験を重ねる。	・物語文や説明文の学習では、読むときの視点を示すことで、具体的に想像して読むことができるようにする。 ・日記や観察記録カードなどを書く活動の中で、メモや文の組み立てを使って、表現する力を身に付けさせていく。	・ペアトークやグループトークを取り入れる際、意見同士を比較・分類する活動を組み込み、共通点や違いに着目できるようにする。 ・メモや箇条書きを文章化する活動を取り入れる。	・発言やグループ活動をする際、相手にとって理解しやすい事例や言葉かけを取り入れた表現ができるようにはたらきかける。 ・書く活動では、文章の組み立てを助けるワークシートなどを活用する。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすることや、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること機械を設ける。 ・書く活動では、筋道を立て整えて文章を書くことができるように例を示し、書く活動に取り組む機会を設ける。	・グループ活動や全体での発言や話し合いをする際は、相手が知らないことについては、丁寧に理由を述べるなどの相手にとって理解しやすい事例をあげる機会を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	・物語文の挿絵や説明文に出てくる物の写真や実物を提示して関心を高める。 ・単元のめあてを示すことで、学習の要点を意識させる。	・学習計画を立てる際に、児童に見通しをもたせることで、すすんで伝え合う活動に取り組めるようにする。（題材やテーマなど。） ・ブックトークや読書活動などにより、本への関心を高めることで、自主的な読みにつなげる。	・活動の手順を簡潔に示し、今どの段階にいるかを意識できるようにする。 ・授業の終わりに振り返りを書く時間を設け、内省の習慣を育てる。	・児童の日常生活の経験と結び付けた導入を行うとともに、見通しとまとめのイメージをもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・授業の終わりに振り返りを書く時間を設け、自己の成長を感じられるようにする。	・学習計画を立て、児童に見通しをもたせ授業の中で何を学習するのかを意識できるようにする。 ・授業の終わりに振り返りを書く時間を設け、自己の成長を感じられるようにする。	・児童の経験と結び付けて導入を行うとともに、見通しとゴールイメージをもたせることで主体性を高める。 ・ノート記述は板書だけでなく、教師の言葉や学習内容に関連する絵など、振り返りしやすいノート作りに取り組めるようにする。